

九州本部・組織強化拡大対策会議

12月16日13:00より、TKP筑紫ロビネスセンター（博多）にて、九州本部組織拡大対策会議が開催されました。博多地区本部からは、穴井委員長、諸永書記長、佐藤組織部長、岩田執行委員、久本執行委員に出席していただきました。まずは前段として、四国本部の大江書記長（写真上）による労働講座「地方公共交通の維持と活性化について」が行われました。会は九州本部の千々岩委員長の開会挨拶にはじまり、その後、中央本部の岩元書記長から「5年ビジョンの経過と現状」について報告していただきました。今回は、東日本本部の戸田青年部長（写真中央）にもお越しいただき、「組織拡大の取り組み」について報告してもらいました。そして、ここ最近では、九州でも**博多地区本部と北九州地区本部にて2名の組織拡大があったため**、その報告を久本執行委員（博多）と森川執行委員（北九）にさせていただきました。その後、青年部からの報告では、福崎執行委員（九州本部※写真下）が「JR九州の若者の現状」というテーマで提起を行い、賃金と退職金の計算方法や退社の実態について説明した上で、今後は職場の若者と積極的に交流し、親身に話を聞くことが重要との見解をいただきました。最後は、萩原執行委員（九州本部）の集約のもと、千々岩委員長の音頭による「団結ガンバロウ」で締めくくりました。皆さん、お疲れ様でした。



青年のひとりごと

5回連続のボーナス低額回答。毎回、乗率が上がってきてはいますが、そもそも、「コロナ」の影響があろうとなかろうと、「2.5カ月」前後は支給するのが本来の取り決めであるため、会社が「嘘つき」であることに変わりはありません。ただ、こうした主張をすると必ず誰かから、「お前も嘘くらいつくだろ！『罪なき者のみ石を投げよ』というイエス・キリストの言葉も知らないのか？」といった言いがかりをつけられるものです。もちろん、私はこれまで「嘘」はもとより、自己保身のための言い訳や屁理屈を通したことも数知れずあります。これは間違いない。しかし、「嘘」をつくことで、その場の面倒を一時的に凌ぐことが出来ても、自分自身の倫理観に背いたという「罪悪感」はずっと付きまとうため、その後の「自省」により、言動を改め自分を律するという姿勢は怠らなかつたつもりです。これは、アダム・スミスが「道徳感情論」で述べている「公平な観察者」という概念から説明できる話で、周囲をどれだけ騙せとしても、心の中の「もう一人の自分」によるジャッジからは逃れられないということであり、その「罪悪感」を克服出来なければ、負い目を感じたままの不満足な人生を生きるしかなくなります。これこそ、スミスが「賢人は自分の中の裁判官の評価を重視するのに対し、軽薄な人は社会からの評価を重視する」と主張する所以です。それでは、会社側はどうでしょうか。「安定供給が基本」と言いながらの「超低額支給」。減収で本当にお金がないのなら、百歩譲って「仕方がない」となりますが、貸付制度で「お金貸します」アピールはまるで筋が通っていない。また、「嘘つき」の結果、社員を生活苦に追いやったのなら、「せめて業務の利便性の方は維持しよう」と考えるのが人情というのですが、実際に行われたのは、理不尽極まりない経費削減。そして、今回に至っては、社員を蔑む「問題発言」もありました。私たちが「不誠実」と呼んでいるのは、こうした「自省」のかけらもない会社の姿勢に対してです。これで表向きは「一流企業」というわけだから、「軽薄」としか言えません。

○当面する行動

- 12月29日（木）11:00～/組織・交通合同対策会議 博多地区本部事務所
- その他未定